

巻頭言

コロナ禍におけるのらえもんの活動

古高 利男

コロナ禍は3年目に入ってしまった。日常を取り戻せないいだちを、益々強く感じるこの頃である。

この間、のらえもんはどのように対応してきたのだろうか。活動を追求する中で見えてきたのはなんだったのか。未来に向けた課題はなんなのだろうか。

2020年度は16分の5、2021年度は17分の9の活動実施状況だった。マスク・検温・消毒をしながら「何となく不安だけ」を抱えて実施した2020年度に比べ、2021年度はコロナの感染状況をみながら「ここまでなら大丈夫だろう」という判断だった。

そうして、活動で仲間と会えたときの喜びは、それまでの時とは違うような気がした。安心とともに心底「よかった」という思いだったのは、私だけではあるまい。その上、人と人とが触れあえる温かさ・居心地の良さを、体全体に漂ってくるようだった。

特にその思いを強くしたのは、宿泊をともなう「キャンプ・スキー」を実施したときだった。この2年間で、キャンプ・スキーはそれぞれ1回のみであるが、宿泊をすることでお互いの全体像をよりよく理解することができた。お互いにたあいな話をする、食事を作る、親子の様子を見る、子ども同士の遊びを見る、家族同士の関わりに触れる。そんなところから、一人一人の全体像が見えてくるし、終了後には「こんなふうにしていけばいいのかな」と、活動の内容を検討・修正した次の計画が出来上がってくるのだった。

なによりも、子どもも大人も自分の心の壁を低くすることができ、それ故に相手の理解を深め親密度が増し絆を深めることができた。これまでも宿泊を伴う活動を実施してきたことをふり返ると、たくさんの家族・子どもたちと過ごす中で生まれてくる安心感・温かさに加えて多様な生活スタイルや価値観に触れ「なるほど！」と自身をふり返る機会に遭遇したことを思い出す。

のらえもん活動の基本は、

- ・ 人も自然もみんなともだち
- ・ 親子で参加
- ・ みんなで学び教え合う
- ・ 続ける中で工夫する
- ・ 山村（里山）と都市との双方向の交流

をモットーに、これまで20年にわたり活動を続けてきた。あらためて、それらの意味をふり返り、共通理解を深め、コロナ後の活動に備えたいと思う。

- ・人も自然もみんなともだち

人は、衣食住のすべてを自然から頂いているのだから、自然への畏敬の念を、つまり仲の良い友だちとしてお付き合いしようとする価値観こそが重要なのではないだろうか。

- ・親子で参加

親と子が共に参加し、話題を共有して欲しいという願いがある。活動の場面を思い出す事が出来、家族の話題として共感を膨らませることができるだろう。

- ・みんなで学び教え合う

みんなでブラブラ歩いていると、子どもたちの気づきが発せられる。その気づきはとても新鮮で「ハッ！」とさせられることが多い。大人が学んで知っている「常識」では対応できない。そんな子どもたちの「つぶやき」「気づき」「発見」を全面的に受け止めてあげたい。大人たちは協力し合って包容力を高めていきたいと思う。

- ・続ける中で工夫する

初めての活動を実施するときは、スタッフたちは不安でいっぱいである。でも、動きださないと始まらない。予想される不安を取り除きながら、まずは実施する。1回目の反省・検証そして「ふり返りの感想」を読むと、次のイメージが浮かび上がってくる。3回目で、参加者全員が共感し合いながら活動出来るようになってきた。その原動力は、会員の皆さんが「参加」してくれたからであった。

- ・山村（里山）と都市との双方向の交流

都市生活者が多くなり、都市中心の社会の動きである。が、忘れてならないのは、都市生活を支えている源は山村（里山）にあるということだ。衣食住のすべてを山村（里山）＝自然に依拠しているということがひじょうに見えなくなっている今だからこそ、山村（里山）と都市とが交流しお互いの協力関係を認め、ともに発展していくことが求められているのではないか。のらえもんがみなかみ町藤原と日光市土呂部での里山体験を続けている目的はそこにある。

なによりも、里山では自然が仲介者になって子どもたちの絆を深め学びを促し仲間として育っていく様子を見てきた。大人たちにとっても、都市生活の疲れを癒し新鮮なエネルギーを吹き込んでくれる場であった。

活動20年を過ぎコロナ禍の今、あらためて「活動の基本」を深く共通理解し、子どもたちの視点に立った活動を進めていきたいと思う。

最後になりましたが、「里山の恵・・・夏休みキャンプ体験」「里山の雪体験」ではセブニーレブン記念財団より、「収穫体験と秋の生き物観察」では子どもゆめ基金より、それぞれ大変貴重な助成を受けることができました。お陰様で、活動の内容を充実させることができました。誠にありがとうございました。

2021年度 活動報告一覧

回	実施日	活動内容	場所	参加者
1	4月 4日(日) 13時～15時	春の生き物観察と桜見物 カブトムシの幼虫配布	都市農業公園	大 13 小 9 計 22
2	5月 16日(日)	田植え体験 12回目 イチゴ狩り カイコの卵配布と紙芝居	宅間農園 バス利用	中止
3	6月5～6日	里山の恵み・・・ワラビ採り 日光茅ボッチとの連携	土呂部	中止
4	7月 3日(土)	押し花遊び 5回目 押し花を使ってマイはがき作り	鹿浜五色桜小 図工室	大 15 小 7 幼 2 計 24
*	7月上旬～下旬	桃の販売 10年前にお世話になった宮原 さんの桃を直販しました	塩山 宮原農園	
5	7月22～24日 2泊3日	キャンプ体験 12回目 川あそび、魚釣り、花火 バウムクーヘン作り 夏の星座観察、里山散策	土呂部キャン プ場(ドロブ ックル)	大 11 小 7 計 18
6	8月30～31日	富士登山 栗原父子が挑戦しました	富士山	大 1 中 1 計 2
7	9月 4日(土)	ハゼを釣ろう 14回目	都市農業公園 荒川河川敷	中止
8	9月12日(日)	稲刈り体験 12回目 田んぼ遊び、虫取り	宅間農園	中止
9	9月25～26日 1泊2日	里山の恵み・・・茅刈り体験	土呂部	中止

10	10月 31日(日) 全日	収穫体験・・・芋掘り 自然観察会 一人4株で4kgの収穫でした！ サギやタニシの歩いた跡を観察 しました	あすなろの里 バス利用	大 19 高 1 中 1 小 13 幼 4 計 38
11	11月 13日(土) 11時30分～ 12時30分	新米の販売 田んぼに感謝を込めて 販売者：宅間農園 合計 386, 6kg	いきいき館の 駐車場	協力者 28 家族・団体
	午後の部 2時～4時	草木染め ハンカチやトートバックに模 様を着け、タマネギの皮で染め ました	山口様の庭	大 6 小 3 幼 1 計 10
12	12月 4日(土)	「サケの一生」の紙芝居 受精卵は入手できず 冬の生き物観察	都市農業公園	大 9 小 5 幼 2 計 16
*	12月12日(日)	受精卵500粒入手！ 翌日配布	千葉県一宮市 睦沢町	大 3
13	12月25日(土) 13時30分～ 16時00分	しめ縄づくり 稲刈りのわらを使って	いきいき館	大 16 小 9 幼 2 計 27
14	1月 8～9日 1泊2日	スキー体験14回目 ・ スノボに挑戦 ・ 冬の星座観察、寒さ実感、 ・ カフェのらえもん	菅平ダボスス キー場 菅平プリンス ホテル	大 13 高 1 中 2 小 5 幼 2 計 23

15	2月 5日 (土)	化石探し2回目	鹿浜五色桜小 図工室	中止
16	2月 12日 (土)	鮭の放流 栗原さんのサケ20匹	新芝川	大 1 中 1 計 2
17	2月26～27日 1泊2日	土呂部のごちそう 6回目 雪の里山体験 かんじき体験、ソリ遊び メイプルウォーター採取 日光茅ボッチの会と連携	日光市栗山町 土呂部 民宿：水芭蕉	中止
18	3月 4日 (金)	梅見物と早春の生き物観察 野菜漢字書きゲーム	都市農業公園 荒川河川敷	中止

参加者合計 大人 104
 大学生 0
 高校生 2
 中学生 5
 小学生 58
 幼児 13
 合計 182

* 生物教材の配布

次のような生物教材を、希望する保育園・幼稚園および会員に配布しました。

- カブト虫の幼虫
- カイコの卵
- サケの受精卵 (本年度は、受精卵を500粒入手できました)